

第5期

27

# おかやま楽習塾

④

講師 建築家、早稲田大名誉教授 石山修武氏

「岡山県の歴史を活かした  
独特な地域づくりについて」

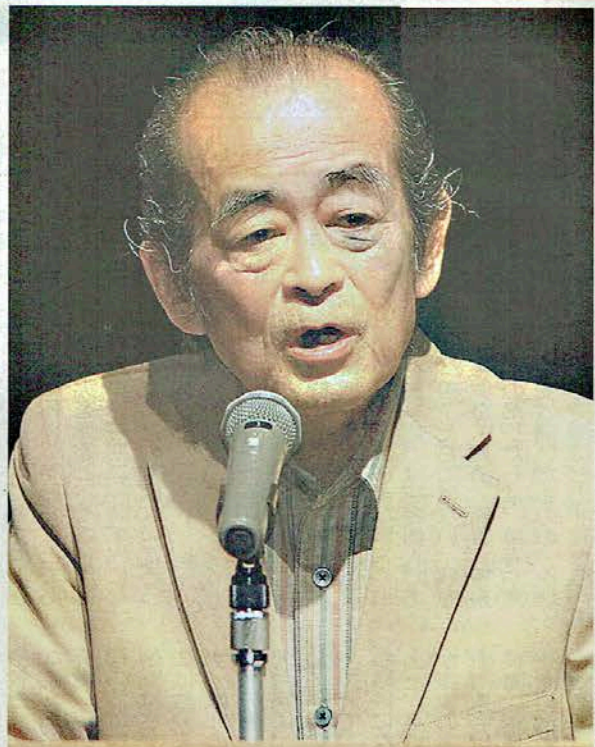
郷土ゆかりの識者による連続講演会「おかやま楽習塾」の第5期第4回講演会が10月18日、岡山市北区柳町、山陽新聞社さん太ホールで開かれた。建築家の石山修武・早稲田大名誉教授(70)は岡山県和気町出身だが、世界で建築、地域づくりプロジェクトに関わってきた経験から、歴史の中で培われた「既にあるもの」を生かした地域づくりを提案した。

私は岡山県の吉井川沿い、佐伯町(現和気町)で育った。そこは母の実家で、2、3歳のころに疎開してからずっといた。やがて東京に戻ったが、それでも毎年、夏の2、3週間はずっと帰ってきていた。50、60年前のあの吉井川、盆地の風景は何物にも代えがたい。水がきれいで、果物がふんだんに食べられ、また、父母や先祖様をとても大事にする。風景も文化も類いまれな所だった。

ものころの風景を思い出してほしい。世界的にも素晴らしいものだったはず。文明は単純な便利さを追いついて、今の環境、風土になった。あまり単純に一方に進んでいった時代を間違っていたとは言わないが、過渡期の時代だったと痛感している。

## 黒光りの床

きょうは少し違う視点で昔のことを考えてみたい。それはノスタルジー。昔を振り返るのはあまりよくない、もっと前進的に考えようという教育も一時あった。大量生産、大量消費というアメリカ型の考え方だ。でも、地域づくりはあまり前向きに考えなくていい。むしろ一度振り返り、強く昔を懐かしむことを、もう少し理屈を組んでみることが、これからの岡山、ひいては日本のために大事ではないか。



「閑谷学校でアジアの人のための私塾を」と話す石山修武氏

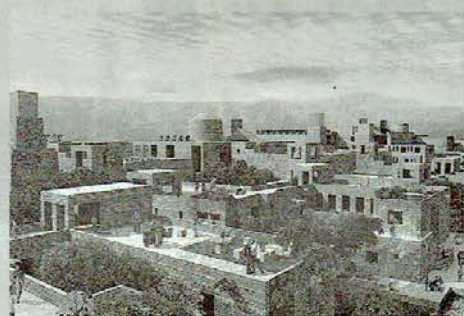
いしやま・おさむ 1944年生まれ。早稲田大理工学部卒、同大学院修士課程修了。88年から2014年3月まで同大教授、同4月より名誉教授。1975年に土木工事用の鉄パイプを外壁に使った住宅「幻庵」を設計。自邸「世田谷村」で芸術選奨文部

科学大臣賞、リアス・アーク美術館で日本建築学会賞、ベネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞など受賞。現在、スタジオGAYAを創設し、建築設計・創作活動を幅広く行う。「石山修武の設計ノート」など著書多数。

# 閑谷学校 アジアの私塾に



【写真上】紅葉に彩られた旧閑谷学校の講堂【同左下】中国・杭州瀟湘路上山荘計画(設計:スタジオGAYA) ©スタジオGAYA(photo by Kanta Ushio)【同右下】インド・ナーランダ新キャンパス計画、academic\_final\_CSEB\_MONKS ©VASTU SHILPA CONSULTANTS



る。それが建物や環境以上に、閑谷学校の価値。この大事にされた方は世界一だと思ふ。しつけや教育面でも岡山の伝統を表現していると思うが、そういうところを岡山県人は自慢しない。これは本場に生かすべきだ。日本人に分らないなら、今や日本の人口より多いといわれる中国人の富裕層を相手に考える方法もあるだろう。

私は今、静岡と山梨県で留学生の大会「中日友好親善新春富士大会in山中湖」(来年1月4日予定)を計画している。日本の地方は厳しく、例えば静岡空港の赤字も最たるもの。ところが、地方空港でも格安航空会社が定着した茨城空港はものすごい利用率。だから中国人の団体を呼び、静岡空港に中国からチャーター便を下ろし、世界遺産の富士山や温泉へ誘う。

こうした企画を、岡山県ではぜひ閑谷学校でできたらいい。中国で今一番困っているのは教育だということも含めて、閑谷学校でやろうというのが最初の提案。閑谷学校がアジアの人たちのための私塾として年に何回かでも使われたら大変な出来事で、何とか実現していきたい。

## 変化する時代

私の恩師は田辺泰先生(1909〜1982年、倉敷市出身。元早稲田大教授)。岡山城の再建・大岡の設計など、古い建築を手掛けた大岡山県人。その先生が私に「超高層ビルなんかより、絵はがきになって残

## 大事な思想

そして今、地域づくりでは、私が今までに見た中で世界最高の案が練られているのがインドのナーランダ。三蔵法師・玄奘も訪れた世界最古の大学の一つで、もちろん世界遺産だ。今はアメリカやヨーロッパだけではない。アジアの国が、とんでもない計画を立て始めている。

この「インド・ナーランダ大学新キャンパス計画」は10万人が住む大学のプロジェクト。インド政府の「世界の大学を」という肝いりで国際的な競技設計があり、私は審査員をさせられた。これは本場に素晴らしいソリューション。ゼロエネルギー都市が、国家的プロジェクトで推進されている。水が全ての元で、電気も自分で起す。下水もみも地域の中で閉じる。これからの地域づくり、まちづくりには一番大事な思想だと思ふ。

その計画のモデルが約2千年前の大学。建物跡は壁厚が1メートルあり、空調が要らない。新しい計画でも分厚い壁を考えている。私が50、60年前の岡山を地域づくりの一つのモデルに、と言った元はここにあり。私が関わる海外の大プロジェクトを紹介してきたが、岡山にはそんなにお金がない。だから、古いものを使う。世界で一番進んでいるインド・ナーランダの地域づくりの小さいのが閑谷学校だぞ、と最後にしつこく申し上げておきたい。